

病院創立80周年

これからも地域とともに

二次元バーコードを読み取ると、関連動画や公式サイトをご覧いただけます。

80周年
カウントダウン



記念対談

「一蓮托生」です。立場は違っても、同じ蓮に生まれさせられた共同体。良いときも苦しいときも、共に進む覚悟を込めました。(山崎)

私は「人(ハート)」と書きました。額が浮かぶ職員がたくさんいます。額のつながりで心が結び合い、一体感が力になる—北信は、人でできている病院です。(荒井)



イルミネーション



創立80周年記念特設サイト

80th
Anniversary

これからも地域とともに

皆様とともに「80年」これからも地域とともに

病院祭



病院創立80周年
これからも地域とともに

創立80周年
記念誌はこちら



これからも、地域とともに

JA長野厚生連 北信総合病院
統括院長 荒井 裕国



北信総合病院は、1945(昭和20)年5月1日に農村医療の拠点として開院し、今年、創立80周年を迎えました。

開院当初は、職員数21人、医師数4人の内科と外科だけの小さな病院でありました。終戦間際の当時は住民の健康意識も低く、地域の健康啓蒙活動が当初のミッションでした。1959(昭和34)年に全国初の1泊2日人間ドックが当院で行われ、1965(昭和40)年から始まった木島平村全村健康管理では村民の健康増進に大きな成果を上げました。近代化I期・II期工事(1965(昭和40)年、1975(昭和50)年着手)により病棟の増築、中央手術室の開設、CT、放射線治療装置、血管造影装置など様々な高度医療機器の導入がおこなわれ、診療科も次々と増えました。1986(昭和61)年にはこの地域で初めての心臓手術が実施され、高度医療の代名詞ともいえる循環器の緊急手術なども可能となりました。

今から13年前の2012(平成24)年から2017(平成29)年にかけて、建物の老朽化に伴う病院の再構築事業が行われ、建物は一新しました。ヘリポートも整備され、災害時には地域住民の皆さまの命を守るべく、地域災害拠点病院としての体制も整いました。臨床研修病院、地域がん診療病院、地域周産期母子医療センター、認知症疾患医療センターなど数多くの指定・認定も取得し、現在では、総職員数約1,000人、100人近くの常勤医師、28の標榜診療科からなる地域の中核病院として大きな発展を遂げて参りました。また、新型コロナでは、32,000人の発熱外来、1,700人に及ぶ入院患者を受け入れ、当院でのワクチン接種回数も27,600件にのぼり、病院職員が一丸となって地域住民を守り抜きました。

次の創立100周年に向けては、少子高齢化が進み、医療を取り巻く環境は益々厳しくなるかと思います。しかしながら、日本の美しい原風景に恵まれたこの地で暮らす人々が、子供を産み、育み、安心して健やかな毎日を送り、災害時にも適切な医療が受けられるべく、時代の変化に応じて地域から求める役割を果たしてまいります。今年度は、80周年記念事業の一環として、7月に北信クリニックを本院隣地に新設し、皮膚科と小児科の外来診療機能の一部をクリニックに移設しました。診療アクセスの向上と初診時の自己負担額軽減が図られ、地域の皆さんにも喜んでいただいております。

この地域の皆さんがここに居ながらにして、都市部と遜色のない高度で安心安全な医療が受けられるべく、これからも尽力してまいります。「地域とともに」という創立時からの不懈の使命感を心に刻み付けて、職員一同、地域の皆さんと歩んでまいりますので、引き続きご支援のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

1945年-2025年

1945
(昭和20)



結核病棟(58床)、産婦人科病棟、中央検査棟上棟式

1953
(昭和28)



上空より全景

1985
(昭和60)



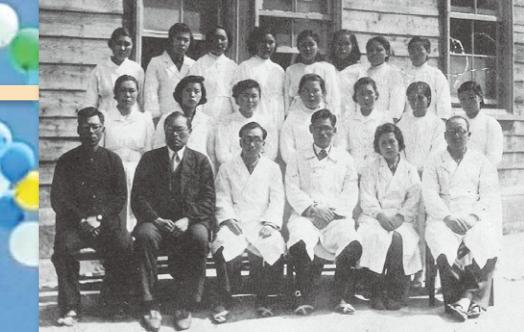
12月 新型コロナ感染症 入院患者対応

2005
(平成17)



1月 能登半島地震対応にてDMAT4隊派遣
同月DMAT派遣活動中間報告会を開催

2016
(平成28)



開院当時の全職員(前列右から3人目が初代 藤岡 定院長)

2021
(令和3)



2月 上空より病院全景

2024
(令和6)



7月 救急診療棟・ホスピタルストリート・ヘリポート竣工

2025
(令和7)



5月1日 病院創立80周年記念セレモニー



7月 北信総合病院附属北信クリニック開院